

れる3千万尾を上回る予測でしたが、前年比32.6%減の2,256万尾となっており、八雲町全体では、前年比74%減の48トンと大きく落ち込んでいます。

このほか、噴火湾内で大量発生したオズワイガニの影響により、エビ籠漁やカレイ刺網漁も影響を受けるなど大変厳しい状況が続いております。これらの回遊資源の回復や生産増大に向けた取り組みが重要であることから、関係機関と連携し、安定生産に向けた資源づくりと資源管理を進めてまいります。

次に、町の新たな水産資源として取り組みを進めている北海道二海サーモン事業は、昨年の海面養殖において生残率が大幅に低下したため不安が生じましたが、熊石種苗生産施設で初めて卵からふ化し育てた二海サーモンの種苗は、現在、熊石漁港内の海面養殖で順調に成長しており、令和6年5月には約40トンの水揚げが期待されています。また、令和4年度からスタートしたサーモン種苗生産は、本町はもとより道南の

サーモン養殖に取り組んでいる町にも種苗供給を開始し、少しずつですが前進しているところと見られます。

町としては、熊石地域の漁業者による「サーモン海面養殖」を応援するとともに、「サーモン種苗生産」の拡大による産業振興を目指し、北海道のサーモン養殖事業のフロントランナーとして、引き続き取り組みを進めます。

担い手や漁業就労者対策、漁港整備事業については、漁業協同組合と就労環境の改善に向けて緊密に連携するとともに、漁港内でのサーモンをはじめとした増養殖事業の推進や漁船の大型化への対応など、漁港の機能強化と効率化に向け、引き続き国および北海道に要請してまいります。

(3) 商工業の振興

新型コロナウイルス感染症が5類へ移行したことに伴い、社会経済活動が通常化となり、全国的には観光業、宿泊業、飲食業を中心に回復している状況にあります。物価高騰の影響による消費低迷から、町内経済においては完

全に回復していない状況にあります。

このことから、町内における消費喚起を図るため、商工会が実施する「物価高騰対応プレミアム商品券発行事業」に対して支援を行うほか、町内事業者経営安定支援として利子の補給を継続するとともに、関係団体と連携を図り、町内経済の状況の把握に努めてまいります。

商工事業者が地域経済に果たす役割は大きく、地域経済をけん引する重要な存在であることから、持続可能な商工業を推進するため、商工会と連携を図りながら、令和6年度から「中小企業等設備導入支援事業」を展開し、設備更新による生産性の向上や起業・創業・事業承継に伴う設備導入に対する支援を行い、町内の中小企業・小規模事業者の活性化を図ってまいります。

近年、デジタル・トランスフォーメーション(DX)化の取り組みが全国的に進められており、現金ではなく電子マネーや電子ポイントで買い物が可能となつてきていることから、こうした時代の変化に対

応するため、関係団体と事業者のDX化について検討を継続してまいります。

(4) 観光の振興

北海道新幹線新八雲(仮称)駅開業を見据え、観光の拠点となつている噴火湾パノラマパークおよび情報交流物産館丘の駅への交流人口のさらなる増加と町内経済への効果波及を図る必要があります。コロナ禍以降変化している観光ニーズを捉え、民間活力と「食」「観光」「体験」といった地域資源を活用したコンテンツの造成を各事業者へ促し、観光物産振興を推進してまいります。

熊石地域の平地区には、キャンプ場やパークゴルフ場、温泉施設、川遊びなど豊かな自然環境を満喫できるレクリエーション施設が整備されておりますが、エリア内に国保病院が建設されることに伴い周辺環境も大きく変わつていく状況において、とりわけキャンプ場利用者の利便性の向上やニーズに対応した施設の改修などの検討を進めるとともに、引き続き利用者の

満足度を高められるよう施設の管理・充実に努め、地域の魅力を発信してまいります。

(5) 雇用の創出と雇用環境の向上

少子高齢化や人口減少に伴い、八雲町における産業の担い手不足、町外への労働力の流出が依然として大きな課題となつております。

U・Iターン就職奨励金事業を継続し、担い手対策に取り組みとともに、雇用の創出に資する施策についても継続して検討してまいります。

(6) 再生可能エネルギーを活用した産業の振興

令和3年3月に「ゼロカーボンシティ八雲」を宣言し、町広報紙やホームページにおいて、ゼロカーボンに関する意識の醸成に向けた内容の普及啓発・情報発信を継続して図ってまいりました。

八雲町は、さまざまな自然エネルギー資源に恵まれた土地柄であり、蓄電池併用型としては国内最大の太陽光発電所や、酪農のまち八雲町の特色であるバイオガス発電が稼